

“濃縮ウラン計画が焦点に”



麻生外務大臣は、28日に開かれた参議院の拉致問題に関する特別委員会で、6か国協議で北朝鮮の核の放棄に向けた次の段階の措置を議論するにあたっては、濃縮ウラン計画の取り扱いが大きな焦点になるという見通しを示しました。

この中で、麻生外務大臣は、IAEA＝国際原子力機関の実務訪問団がピョンヤンを訪れるなど、核施設の稼働停止に向けた動きが出ていることについて「初期段階の措置は、2月の合意からすでに4か月もたっており、やっとスタート台に立ったというだけだ。赤飯を炊いて喜ぶような話ではない」と述べ、北朝鮮は速やかに初期段階の措置を履行すべきだという考えを示しました。そのうえで、麻生外務大臣は、初期段階の措置に続く北朝鮮の非核化に向けた次の段階の措置について「北朝鮮はすべての核計画を申告することになっており、この中では、濃縮ウラン計画の取り扱いが大きな焦点のひとつになる。今後の6か国協議の中で非常に大きな問題となるだろう」と述べました。

